

リサーチユニットの名称		絆社会継続発展モデルとしての小児難病総合			
リサーチユニットの名称(英語)		Create the KIZUNA through sick children			
名前	所属部局	職名	専門	学位	役割分担
須磨崎亮	医学医療系	教授	小児科学	医学博士	代表者
竹田一則	人間系	教授	障害科学	博士(医学)	障害科学的総括
田宮菜奈子	医学医療系	教授	ヘルスサービスリサーチ	医学博士	社会医学的総括
庄司一子	人間系	教授	発達臨床心理学	博士(心理学)	心理学的総括
増本幸二	医学医療系	教授	小児外科学	医学博士	小児外科的総括
松村明	医学医療系	教授	脳神経外科学	医学博士	脳神経外科学的総括
櫻井英幸	医学医療系	教授	放射線腫瘍学	医学博士	放射線腫瘍学的総括
野口雅之	医学医療系	教授	病理学	医学博士	病理学的総括
原尚人	医学医療系	教授	外科学	博士(医学)	甲状腺外科的総括
長谷川雄一	医学医療系	准教授	血液学	博士(医学)	血液学的総括
高橋秀人	医学医療系	准教授	疫学	博士(学術)	疫学的総括
古谷佳由理	医学医療系	准教授	看護学	博士(看護学)	看護学的総括
増本智彦	医学医療系	准教授	放射線診断学	医学博士	放射線診断学的総括
野口恵美子	医学医療系	准教授	遺伝医学	医学博士	遺伝学的総括
福島敬	医学医療系	講師	小児科学	博士(医学)	小児腫瘍学的研究
大戸達之	医学医療系	講師	小児科学	博士(医学)	小児神経学的研究
小林千恵	医学医療系	講師	小児科学	博士(医学)	小児血液学的研究
山本哲也	医学医療系	講師	脳神経外科学	博士(医学)	脳神経外科的研究
藤代準	医学医療系	講師	小児外科学	医学博士	小児外科的研究
新開統子	医学医療系	講師	小児外科学	医学博士	小児外科的研究
鈴川和己	医学医療系	講師	血液学	博士(医学)	血液学の実践研究
瓜田泰久	医学医療系	診療講師	小児外科学		小児外科学の実践
水本斉	医学医療系	診療講師	放射線腫瘍学	博士(医学)	放射線腫瘍学の実践
五藤周	附属病院	病院講師	小児外科学		小児外科学の実践
井原哲	附属病院	病院講師	脳神経外科学	博士(医学)	脳神経外科的研究
大城佳子	医学医療系	非常勤講師	放射線腫瘍学	博士(医学)	放射線腫瘍学の実践
福島紘子	附属病院	クリニカルフェロー	小児科学		小児腫瘍学の実践
鈴木涼子	附属病院	クリニカルフェロー	小児科学		小児血液学の実践

キーワード(5つまで)	小児難病	トータルケア	ヒューマンケア	被災	育児支援
キーワード(英語)	intractable disease	total care	human care	victim	child care support
研究グループHP	URLを記載してください。 http://www.md.tsukuba.ac.jp/clinical-med/pediatrics/ , http://www.md.tsukuba.ac.jp/hsr/ , http://www.pmr.tsukuba.ac.jp/				
研究グループ概要(100字程度)					
<p>医療職および学校・行政等の多職種が関与する小児難病(特に小児がん)の医療現場をモデルとして、副作用を抑えながら治癒率向上を目指すための研究と同時に、病弱児(者)・障害児(者)の社会参加をより有機的に実現する絆社会を創生するための基礎研究を目的とするグループである。</p>					
研究グループ概要(英語)					
<p>Create a KIZUNA SHAKAI, reciprocal and barrier-free community, through a study of a care for children with disease/disability.</p>					
設置の目的及び必要性					
<p>東日本大震災・津波被害・福島第一原発事故は、人類史上初の大規模複合災害であり、主な被災地である福島県に近接する本学の行動には、世界が注目するところである。附属病院における小児腫瘍の集学的治療体制はすでに構築され、国内各地からの紹介患者が増加中である。一方で、東京教育大学時代からの豊富な実績と知的・人的資源とが蓄積されている。学際グループを構成することによって迅速かつ効果的に本研究を実行し、かつ教育(人材育成)を通じた社会貢献を目的とする。本研究の必要性、本学が行う必然性は明らかである。</p>					
<p>小児がんの集学的治療・新規治療技術等の開発に関して、現在までの方針を継続発展させる。特に先進医療として提供中の陽子線療法と内視鏡下甲状腺癌摘出術とを、小児患者に応用するための研究・人材育成を推進する。原発事故後の小児甲状腺癌検診体制を支援するための高度医療人育成プログラムを構築する。放射性物質・放射線被曝と関連した育児不安対策として、医学知識の普及に加えて臨床心理学的・ヒューマンケア科学的アプローチを研究し、人材育成を行う。これらを通じてバリアフリー・共生・絆社会実現のための基礎的検討を行う。</p>					
研究・教育に期待される効果(箇条書き)					
<p>本研究・教育によって、以下の効果を期待可能である。(1)我が国において小児死亡原因の上位を占める小児がんの救命率が向上する。(2)副作用・治療毒性軽減と教育によって、小児がん克服者の社会参加を促進する。(3)受入側の要因分析と教育・意識改革・啓発によって環境を調整する。(4)小児難病児・難病克服後の病弱児・障害児本人の主体的参加を伴う多職種共同作業による高度バリアフリー・共生社会を実現し、人的絆による高齢化・介護社会に対応するためのモデルを示す。</p>					

研究プロジェクト計画の概念図

